



鈴鹿市議会議員なかにしだいすけの活動報告

議会報告2009

<http://www.daisuke-nakanishi.net/>
daisuke.nakanishi@gmail.com

2009
3月～12月

発行者：
中西大輔と鈴鹿を育てる会
鈴鹿市南若松町296-12
TEL&FAX: 059-368-1110

12月定例会報告 生活保護対象者の増大で5億円強の増額補正

12月議会議案の主要なものは、市長と副市長（ここには議員も含まれています）、市職員の期末手当の減額に伴う条例改正と、一般会計補正予算（第3号）、公共下水道に関する2議案、北勢公設地方卸売市場が民営化されることに関する3議案、そして指定管理者の指定に係る20議案などです。

期末手当に関する条例は、議会開会日に議決され、この12月の期末手当から適用されています。公共下水道に関連する2議案については、都市計画に隣接する区域外の方が下水道を引く際の負担等について、これまでには明文化された規定がなかったものを明文化するという内容です。公設市場に関する議案は、民営化されるに当たり、鈴鹿、四日市、桑名で分担していた土地などの財産について無償貸付をするものです。

一般会計補正予算での主要な増額分として、生活保護費の扶助費で5億426万5千円の増額、障害者自

2009年に開かれた本会議での 質問などの活動のまとめ

◆3月議会

一般質問： 施政方針について、白子駅周辺への取り組み（ランタン通り）について、予算編成に関して
議案質疑： 議案第1号平成21年度鈴鹿市一般会計予算中、指定管理者制度推進費、人事管理費退職手当について、給与費明細書一般職表について

討論： 意見を付与して、全議案に賛成

討論要旨： 予算案について、急速な社会、経済情勢の変化の中、より慎重に執行されるべきと指摘。人事管理費中、退職手当について、年度内でも分割支給の可能性を検討するなどを提案。児童福祉費に関連して、父子家庭のサポートについて、鈴鹿市独自の対応の検討を提言。議案第15号について、この条例を施行するにあたり、安易な職員諸手当の増額につながらないよう、適正な時間内で労働時間がおさまるように十分配慮、そのための人員配置についての配慮などを指摘。議案第18号について、市におけるスポーツ振興の方向性なども含め、十分に議論を行うべきと提言。

◆6月議会

一般質問： 危機管理体制について、ユビキタスネットへの対応について

採決： 提出議案に賛成

◆9月議会

一般質問： N T T西日本跡地土地利用転換計画について
指定管理者制度について

議案質疑： 平成20年度鈴鹿市一般会計決算の認定について

討論： 意見を付与して、全議案に賛成

討論要旨： 時間外勤務手当について、社会福祉総務費、児童福祉総務費、生活保護総務費の三つで、時間外手当総額7379万406円が支出されていることは、業務内容、職員の能力について精査し、行財政改革の視点からも真摯に解決に取り組むべきと指摘。同時にこの金額は、雇用創出の可能性も示唆するから、囑託職員の雇用の場を増やすなどを提言。F1経済効果調査費に関連して、鈴鹿市職員の資質向上、アンケートなどは地区市民センターの活用を提言。地域公共交通会議などでも、コンサルタント利用のあり方、職員の取り組みのあり方の再考を提示。市の医療体制を守るため、市民の意識向上啓発、新年度予算編成での重点配分を行うことを提言。

◆12月議会

一般質問： 海岸線への取り組みについて、休日のスポーツ外傷への対応について

議案質疑： 平成21年度鈴鹿市一般会計補正予算について、指定管理者の選定に係る議案95～99号について

討論： 意見を付与して、全議案に賛成

なぜ議案質疑と討論をするの？

議案質疑と討論を行っている議員は、実際のところ一部です。議案質疑に関しては、委員会での議論もできませんが、基本的にはひとつの常任委員会に所属ですから、自分の所属している委員会以外のことについては、なかなか自分の言葉で議論ができません。ですから私は、本会議で質疑を行っています。それはもちろん、議決の際に議論を行うという前提があります。討論を行うのは、議案の議決に対して議員としての意思表示を行うためです。議案質疑と討論を行うことは、市民の方々への議員としての説明責任と、私は考えています。

議会での委員会活動

建設水道・議会改革・鈴亀広域

今年、建設水道常任委員会と議会改革特別委員会、鈴鹿亀山地区広域連合議会に所属しています。建設水道委員会では副委員長をさせていただいています。

建設水道委員会では、「駅前整備と周辺地域の活性化」、「上下水道のあり方」、「新名神の取り組みについて」を取り上げ、委員会として市への提言をまとめています。

また、議会改革特別委員会では、昨年度に引き続き議論を行っていました。12月議会では、一般質問を一问一答の片道方式を試行しました。議論としては、まだまだ課題も多いのですが、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

鈴鹿亀山地区広域連合議会は、介護保険についての話が中心となりますが、平田駅前にある消費生活センターの活動も含め、関連することでも一般質問として取り上げることがあります。両市長も出席する場となりますので、積極的に発言を行いたいと思います。

地域での活動から

若松地区・愛宕小学校区

以前も書かせて頂きましたが、若松地区と愛宕小学校区とを意識しながら、市政全般に取り組みさせて頂いています。若松地区では、まちづくり協議会が発足し、総代会をはじめとした地域の団体をつなぐ形での地域づくりが進んでいます。来年から新

これからの展望は

量から質への取捨選択

昨年来の不況について、短期間で収まるものでもなく、また、以前のように戻るものではないのではないかと考えています。

いろいろな要因はありますが、少子高齢化を伴う「人口減少社会」の到来、ブラジルで新しい油田が発見されたと言われるものの「石油ピーク」の課題、価格破壊という言葉のはじまりから現在まで続く「デフレ・ショック」への対応、このようなことを考えても、否応なく、新しくも不透明な時代に、次の世代も含めた私たちは向かわざるを得ないと考え

しくなる地区市民センターには、市内でも初めてになる独立した「地域部屋」があり、市民活動の拠点としていくことと思います。また、愛宕小学校区では引き続き町民会議の活動などを通じて、校区の課題を市と話し合っています。学校での課題も含めて、これからも取り組んでいきます。

ています。

そういう時代の中では、これまでのような「量の拡大」ではなく、私たちの生活の「質の向上」がより大切になると思います。その中で社会の大きさを、人口も含めて身の丈にあうようにしていくなかで、私たちの生活を良くしていくことではないかと考えています。そのためには先の事業仕分けではありませんが、より戦略的に政策の取捨選択を考える必要があると考えています。また、地域のがんばりが、地域をよくする方向にきちんとつながるような政治が大切です。

議会として、議員として、これからも取り組んでいきます。